

井戸端 市民通信

月刊

読者のみなさんのページです。最終面に掲載している広報クイズの答えと一緒に、気ままなひとこと、ちょっと言いたいひとことを、お待ちしております。

読者の伝言板

敬称略

土崎空襲の時、私は小学一年。豊岩に疎開していた。さまざまに光と音、秋田方面の空が赤くなったことを覚えています(佐藤俊彦 62歳・桜)

終戦から五十五年たっても、土崎では今だ不発弾が。新聞やニュースを見るたび、空襲のすさまじさと傷跡の深さが感じられます(安田牧子 32歳・将軍野)

二〇〇〇年の夏、ハッピーなことがありました。中学・高校時代の級友たちと再会。みんな若くてきれい。「元氣をいただきました(土橋悦子 41歳・将軍野)

夏休み中、体調を悪くして入院。みんなに心配をかけた。入院中、おばあちゃんが持つてきてくれた「五体満足」という本を読んで感動しました。五体満足の僕、甘えていられないと思いました(熊谷潤 17歳・保戸野)

今年の夏は娘のために頑張つて四回ほど海へ。最後の最後に娘はクラゲに刺され、太もも上部がパンパン。苦しみの夏になったようです。でも、

来年も海へ行くと、すでに宣言をしていました(桜田まみ 34歳・楢山)

九月九、十日のわくわくランド、楽しそうですね。保育所でチラシをもらいました。

二歳のやんちゃ坊主は救急車や消防車が大好き。間近で見せてあげたいです(高橋美保子 30歳・土崎港)

八月三十一日生まれの娘が一歳に。この一年、過ぎてしまえばあつという間でした。成長していく我が子をこれからも見守り続けます。健康が一番。元氣のよい子に育ってほしいと願っています(佐々木ミナ子 30歳・新屋)

文化会館で開かれた「楽太郎・小遊三二人会」を孫たちと見てきました。テレビで見る笑点ではわからない熱演で楽しい思いをさせていただきました。もちろんアンケートには「大満足」にマル(佐藤イネ 84歳・土崎港)

「ぼぼろーど」、先日通つてみました。広く明るい空間で、早く大屋根も完成してほしいです(吉田尚子 33歳・

地域の話 おしえて!!

空き店舗を活用してにぎわい復活を！ 土崎商店街に港カルチャークラブ出現

土崎商店街に人を呼び込もうと、地元商店街の有志が、空き店舗を積極的に活用した新しい取り組みを始めました。

空き店舗をカルチャーセンターに改装したもので、その名も『港カルチャー倶楽部』。場所は、本町通りに面する温泉「あったまりな」のとなりです。

「商店街の真ん中にシャッター

が下りているのは、非常に良くない。とにかく、空き店舗を作りたいんです。多くの人に商店街に足を運んでもらい、かつてのにぎわいを取り戻したいと思って始めました」と同倶楽部代表の幸野谷基さん(土崎港元町商店会長)。

教室は、英会話、カラオケ、ヨーガなどおよそ40講座。生徒のほか講師も随時募集しています。

このコーナーでは、町内や地域のいろいろな話題を紹介していきます。耳よりのニュースがありましたら、広報課までお知らせください。

☎(866)2034 FAX(866)2287



みなさんのお越しをお待ちしています
問い合わせ 港カルチャー倶楽部 ☎(847)1147